

鶴見区区政会議 令和元年度第2回地域保健福祉部会議事録（要旨）

1 日 時 令和元年9月18日（水） 19時00分～20時52分

2 場 所 鶴見区役所 4階 402会議室

3 出席者

（委員）

山田部会長、柴田副部会長、笹原委員、高田委員、伴委員、久木委員、吉江委員

（区役所）

長沢区長、武富副区長、嶋原市民協働課長、谷上保健福祉課長、
松井子育て支援・保健担当課長、柏木生活支援担当課長、河本福祉担当課長代理、
秋山保健担当課長代理、金森保健副主幹兼保健福祉課担当係長、
野上市民協働課担当係長、秋本市民協働課担当係長兼保健福祉課担当係長、
大田保健福祉課担当係長、小谷保健福祉課担当係長、日下保健福祉課担当係長、
橋本保健福祉課担当係長、青柿保健福祉課担当係長

4 議 題

- 1 区政会議における意見への対応状況
- 2 令和2年度鶴見区運営方針のたたき台について
- 3 鶴見区区政会議委員評価シート（結果）
- 4 区政会議に関するアンケート（結果）
- 5 その他

5 議 事

（1） 長沢区長開会のあいさつ

（2） 令和元年度第1回全体会における主な意見の説明

➤ 委員からの質問・意見等

- つなげ隊について、より地域と連携できる取組み事例があれば教えてほしい。
- 月例で連絡会を行っており、そこで各地域の取組み状況や認知症に関する報告を行うとともに、コミュニティソーシャルワーカーや包括支援センターなど関係機関からの報告を行っている。今後は、連絡会の議事録を作成し配付するなど工夫をしていきたい。

- つなげ隊と鶴見区社会福祉協議会、地域活動協議会の役割を教えてほしいとともに連携について、具体的な方策を聞きたい。
 - 鶴見区役所が鶴見区社会福祉協議会に委託している「住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業」には「つなげ隊の配置」、「コミュニティソーシャルワーカーの配置」、「あいまちの実施」があり、各地域から推薦されたつなげ隊員と鶴見区社会福祉協議会は雇用関係にあり、区役所や関係機関が出席するケア会議への参画などそれぞれの事業においてさまざまな連携をしている。
- つなげ隊は 12 地域それぞれに特徴があると思う。また、地域の中でもさまざまな状況があり、個別ケースにあわせて包括支援センターや鶴見区社会福祉協議会などと連携し対応をしている。
- つなげ隊を知らない人が多いため、福社会館等の相談窓口看板設置をするなど周知が必要である。

(3) 令和 2 年度鶴見区運営方針のたたき台について説明

○だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり（地域福祉）

○だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり（健康づくり）

➢ 委員からの質問・意見等

- 老人会で認知症予防のためさまざまな事業を実施しているが、参加者が固定化している。参加しない人を参加させる方策を教えてほしい。
- 老人会の会員が減少している。名前も変える必要があると思う。
 - 昨年「シニアアクティブクラブ」と名付け、区民まつり等でメンバー募集の取組み等が行われました。
- 認知症の予備軍が増加しているように思う。
 - 区民の方々に認知症に対する知識を深めてもらうよう、認知症サポーター養成講座を活用し、サポーターの養成に努める。
- 認知症予防のため、要介護 3 から要支援レベルの対策をどのようにしていくのか。
 - 栄養面や食生活、有酸素運動などの取組み一つ一つを区民の皆さんに広げていきたい。
- 引きこもりのひとは一人暮らしが多く、地域と協力しなければ引っ張り出すことは難しいため、つなげ隊の役割が大切である。
 - 8050 問題も含め、つなげ隊や包括支援センターと連携・情報交換を行い、対策や個別支援の強化に努める。
- 鶴見区を活性化するビジョンを出してほしい。
 - 鶴見区地域福祉戦略会議や区政会議で意見聴取し「地域保健福祉

ビジョン」を平成30年4月に策定し5年間の計画としてとりくんでいるが、必要に応じ見直しを検討する。

- つなげ隊は単独で動ける状況ではないので、地域活動協議会として動ける組織にしないといけない。
- 認知症サポーターについて教えてほしい。
 - 認知症サポーターは、キャラバンメイトがおこなう講習を受けることで、認知症に関する正しい知識と理解をしていただいた方であり、その知識を自身のためや地域に広く広めるために活用いただきたい。
- 認知症・生活習慣病の予防に食生活改善は大事だと思うが、食に関しての予算が少ないように感じる。
 - 食生活の改善には、鶴見区食生活改善推進員との連携や、食育フェスタで取り組んでいる。色々な形で食生活に関わる情報発信についても取り組んでいきたい。

(4) 鶴見区区政会議委員評価シート（結果）の説明

区政会議に関するアンケート（結果）の説明

➢ 委員からの質問・意見等

- がん検診があるように認知症の検診があればいいとあるが、認知症の検診は実際できるのか。
 - 一般的に脳ドックが認知症の検診にあたるが、MRIで海馬の減りをみたり、細かい質問が必要である。

(5) 事務連絡